

令和4年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	神戸大学	主な交流先	オーストラリア
事 業 名	世界的課題解決に向けた工学系グローバル人材育成のための国際共修/協働学修プログラム		
海 外 の 相 手 校	ロイヤルメルボルン工科大学、ジョージア工科大学、マヒドン大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、「国際共修場」の提供を最大の特長とし、日本とオーストラリア、米国、タイの間で工学部学部生を工学系グローバル人材として育成しようとする優れた取組である。特に外国人学生受入、ならびに日本人学生の留学派遣をパッケージ化し、5年間で受入・派遣ともに100人規模の実渡航を通じ、外国人学生にはグローバル企業研修、国際インターンシップ、価値創造型PBLや学生ワークショップを、神戸地区を中心とする地域企業群との良好な関係の下に展開することで日本留学に向けた動機付けを促すとともに、日本人学生に対しては工学英語入門に始まり、複数年にわたる継続的な国際共修プログラムを実施することで、国際交流意識とグローバルな視点を高め、将来的に中長期留学に取り組む工学系大学院生の増加を目指している点が注目される。

海外学生の日本企業におけるインターンシップについて、受入学生に対する大学の教育として、日本の産業構造論や日本企業全体俯瞰、日本企業のグローバル産業の中での特徴の教育（国際教育連携等により）等の可能性について意欲が示されている点も高く評価できる。また、カーボンニュートラル（CN）や持続可能な開発目標（SDGs）に関する先端工学講義、防災・減災講義の実施、日本事情や日本文化、語学を含めた内容を、オンラインやJV-Campusの活用とともに考慮している点も興味深い。

一方で、外国人留学生のインターンシップ等企業と連携する活動について、産学連携の観点からプログラム内容を精緻化できないか、また4大学間の連携体制や評価体制の在り方について明確ではないという課題が指摘される。これらの懸念は、貴学の「大学としての日本産業についての教育」を有言実行する上で重要である。日本の工学系産業は、今回提携相手となるオーストラリア、米国、タイや他国に対してグローバルな観点から優位にある。この優位性を大学教育で活用できれば、海外学生から見てより魅力的な教育になり、日本の大学教育のグローバル展開力強化のベストプラクティスともなり得る。本プログラムのようなグローバル教育を通じて育成された国内外の工学系グローバル人材が日本の産業界で活躍することは、工学系に限らず日本の全産業のさらなる強化にもつながることから、本事業への期待はきわめて大きい。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。また、本事業は、補助期間終了後は自立的に事業を継続することが前提とされていることから、継続的かつ発展的に質保証を伴った事業を展開されたい。